

熊野とは

－熊野三山

－熊野速玉大社（新宮市）、熊野本宮大社（田辺市本宮町）、熊野那智大社・青岸渡寺（那智勝浦町）、他に神倉神社、阿須賀神社、妙心寺（新宮市）、飛瀧権現、補陀落山寺、阿弥陀寺（那智勝浦町）等、他に鬪鷄神社（田辺市）等。

－熊野信仰

－現在でも熊野関連社寺は、全国で約4,800件。

－古代から瀧や巨岩への自然信仰の場。その後、山岳修行の場となり、平安時代後半からは、上皇（法皇）や女院、公家らによる熊野詣が盛んに。承久の乱以降、朝廷からの参詣は下火となるが、鎌倉幕府傘下の武士たちにより継続。平清盛や源義朝の末子は熊野生まれ（平忠度、源行家）。その後、次第に、庶民も詣でるように。参詣者の行列が絶えないことから「蟻の熊野詣」とも形容された。

－熊野の主たる祭礼：扇祭（那智大社）、御灯祭（神倉神社）、御船祭（速玉大社）、渡御祭（本宮大社）、八咫烏神事（本宮大社）、牛玉神璽祭（那智大社）ほか

－熊野古道

－大辺路（大阪 ⇄ 那智）

－中辺路（田辺 ⇄ 本宮 ⇄ 新宮）

－大雲取越、円座石（わろうだいし）、小雲取越、高野坂ほか

－小辺路（本宮 ⇄ 高野山）

－伊勢路（伊勢 ⇄ 熊野）

－大峯奥駈道（本宮 ⇄ 吉野）

－修行、修驗、山伏、七十五靡（なびき）、のぞき修行、熊野修驗

－熊野御幸、熊野詣

－上皇：宇多上皇（907年）以降、花山上皇、白河上皇（9回）、鳥羽上皇（21回）、崇徳上皇、後白河上皇（34回）、後鳥羽上皇（29回）、後嵯峨上皇（2回）亀山上皇、女院：待賢門院（12枚）、美福門院（4回）、上西門院、健春門院（4回）、八条院、七条院（5回）、殷富門院（回）、修明門院（11回）、承明門院、陰明門院ほか、公家多数。

－熊野九十九王子：熊野御幸の中継地に置かれた宿所。

－熊野懐紙：熊野御幸の際に、途中の王子等で催された和歌会で詠まれた和歌を記した書

－牛玉宝印（ごとうほういん）：熊野三山で参詣の証として配布されたお札。本宮・新宮では、熊野牛玉宝印が、那智では那智瀧宝印が付与された。16世紀以降は鳥文字（鳥で構成された漢字）が使われた。

－熊野誓紙：牛玉宝印の裏面に誓いの文言が記され、起請文として用いられ、誓約が守られないと罰があたると信じられた。キリスト教宣教師が編纂した『日葡辞書』にも記載。

－宗教的自殺（入定）：火定三昧（応照上人）、投身（林実利）、補陀落渡海（補陀落山寺住持等）：内、日秀上人は沖縄に漂着し布教、沖縄には熊野社が9社現存。

比較宗教美術史的アプローチ I

－大雲取越中の円座石（わろうだいし）：熊野三山の神々が仏の姿（阿弥陀＝本宮、薬師＝新宮、觀音＝那智）で岩の上でお茶を飲んだとされる巨岩
－Cf. エルサレムのキリスト昇天教会：キリストの足跡が残り、昇天の経路は塞げないという伝説があった。比較宗教学者ミルチャ・エリアーデの「世界軸（axis mundi）」
－神倉神社（新宮市）：ひきがえるの形状をした巨岩（ごとびき岩）がご神体。
－Cf. 北欧ラップランドのカエル岩信仰

東京大学の熊野での活動

－東京大学体験活動プログラム：やわな（？）東大生をタフに（2016年～）
－新宮市と文学部による連携協定（2020年度～）：東大人文・熊野プログラム
－新宮市丹鶴ホールに分室設置、助教が季節常駐、新宮市立図書館に東大コーナー設置
－国内でのフォーラム、研修等各種行事の開催
－東大人文・熊野フォーラム、同セミナー
－若手国際フォーラム・留学生/院生熊野研修
－本宮大社渡御祭留学生神輿体験
－熊野地方中学生東大研修
－文化財の調査・活用（青岸渡寺本堂厨子・秘仏調査、瀧寿庵茶会等）
－海外発信支援：海外における国際熊野フォーラム・セミナー、学会発表等
－ニューヨーク、フィレンツエ、ゲント、リヨン、ボローニャ等
－海外姉妹都市・友好都市交流支援
－米国、サンタ・クルス市（UCサンタ・クルス校）、スペイン、パドロン市等

比較宗教美術史的アプローチ II

－サンチャゴ・デ・コンポステラ（スペイン、ガリシア州）
－エルサレム、ローマとともに、三大巡礼地の一つ。熊野と提携し、デュアル・ピルグリム認定証を発行。ホタテ貝の貝殻や、サンチャゴ（聖大ヤコブ）をあしらった巡礼記念バッジ等が、巡礼記念品として配布された。
－巡礼記念品・参詣記念品の比較

熊野勧進に学ぶ

－熊野勧進：朝廷や幕府からの庇護が失われ、財政的危機に陥った際に、全国規模の勧進活動を展開。熊野本願所をベースに、山伏や熊野比丘尼が日本中で勧進活動を展開。現代の

ファンドレイジングの源流。

- －熊野比丘尼（くまのびくに）：熊野のために全国で勧進活動を行った女性。牛玉宝印をはじめとする参詣記念品（お札、楳の葉、酢貝等）を各地で配布し、絵解きを行い、集金するとともに熊野についての広報を行った。
- －絵解き：熊野比丘尼による『熊野觀心十界図』や『那智参詣曼荼羅』等熊野に関わる絵の解説パフォーマンス。
- －海外における絵解き実演：ニューヨーク、フィレンツェ、ボローニャ

最近の熊野での活動

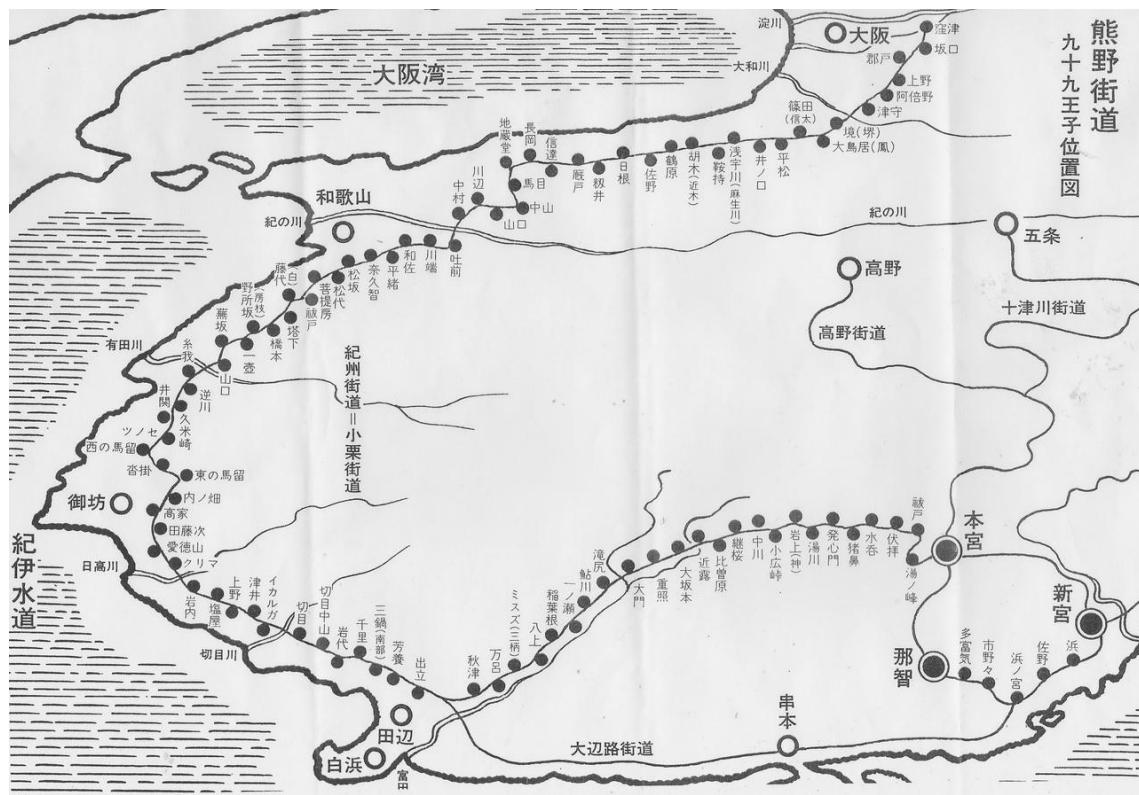
- －青岸渡寺本堂厨子・秘仏調査
- －青岸渡寺瀧寿庵茶会
- －今後：12月14日：東大人文・熊野セミナー、2月中旬：留学生/院生熊野研修

その他の熊野関連事項・人物等

- －経塚：那智大社・青岸渡寺、神倉神社、阿須賀神社等に経塚遺跡多数
- －海の聖地、川の聖地：熊野灘、熊野川
- －温泉：那智勝浦町に源泉 170 超、湯之峰（つぼ湯）、川湯、雲取ほか
- －巨岩等：橋杭岩（串本）、一枚岩（古座）、滝の拝（古座）ほか
- －漂着・渡来者
 - －神武東征（新宮の南方、佐野に上陸との説あり）
 - －徐福伝説（秦の始皇帝に命ぜられて不老不死の薬を探索中に定住という伝説）
 - －裸形上人（インドから渡来し、青岸渡寺を開いたとされる）
- －『梁塵秘抄』（後白河上皇編集による今様（いまよう）の集成：「熊野へ参らむと思へども徒步（かち）より参れば道遠し、すぐれて山峻（けわ）し 馬にて参れば苦行ならず 空より参らむ 羽賜（た）ベ若王子（にやくおうじ）」）
- －『熊野御幸記』（1201年、藤原定家が後鳥羽上皇の熊野御幸で先導役を果たした際の日記）
- －西行、一遍、親鸞等多くの僧侶も熊野詣
- －平清盛、平忠度、源義朝、源（新宮）行家、丹鶴姫等
- －熊野水軍、熊野別当（源平合戦の勝敗を握った）
- －鎌倉幕府、源頼朝、北条政子、源実朝、無学祖元（「紀州熊野の靈祠において香を献ず」）
- －足利義満、側室北野殿（熊野三山に多大な寄進。）
- －小栗判官（つぼ湯、車塚等）、文覚和尚滝行
- －新宮藩水野家（紀州徳川家付家老、9代藩主忠央は、幕末の大老井伊直弼の右腕的存在）
- －大逆事件（明治天皇暗殺未遂事件。今日では冤罪と判明、首謀者として処刑された大石誠之助は新宮市の医師・文化人。2018年に新宮市名誉市民に）
- －南方熊楠（民俗学者）、西村伊作（文化学院創設者）、佐藤春夫、中上健次、新宮正春等



熊野三山



熊野九十九王子